

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

## ワークショップ開始

(※録音開始前に、事前アンケートを実施した)

(録音の同意をいただいて、録音開始)

木村：それでは始めたいと思います。第 6 回、最終回のワークショップになりますけれども、「エネルギーの将来はどうあるべきか」というテーマで、皆さんとお話をしていきたいと思います。

本日は、案内でもお知らせしていますが、経済産業省資源エネルギー庁から須山様が、また、第 2 回するときにもいらっしゃった大川様が見学にいらしています。活発な議論をしていただければと思います。ただ、あまり気負わずに自由に話してもらえればと思います。

## プロジェクトが目指すもの

▶ **エネルギーについてよく知り、自分の意見を持った上で、周りの意見を尊重しながら、エネルギーの将来についての「合意」を目指して話し合う。**

- 最終的には、**2050年の日本のエネルギー構造**について考え、話し合う。それを目指してワークショップを進める。
- もし合意が取れなかったとしても、「合意」を目指すためには、さらにどのような情報が必要になるのかを話し合う。プロジェクトでは合意を目指す、全6回のワークショップで必ず取らなければならないということはない。

木村：それでは、振り返りも含めて、このプロジェクトがどういうことを目指していたのかを確認したいと思います。

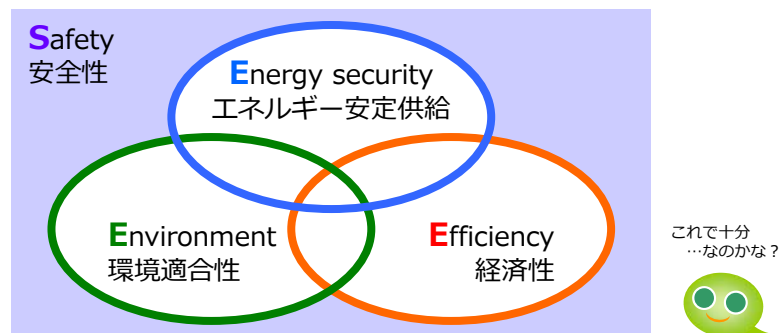
配布資料の中に、パワーポイント資料と、四角と矢印が書かれているシート（エネルギーフロー図）が2枚あると思います。今日はそれらを使っていきたいと思います。

まずはパワーポイント資料を見てください。本プロジェクトが目指すものは、「エネルギーについてよく知り、自分の意見を持った上で、周りの意見を尊重しながら、エネルギーの将来についての『合意』を目指して話し合う」ということでした。具体的には、2050年の日本のエネルギー構造について話し合っていこう、ということになっています。



## エネルギーの将来を考える

- ▶エネルギーの将来を考えるには、「3E+S」が重要とはよく言われる。大前提のSに加え、3Eのトリレンマを考えなければならない。



木村：エネルギーの将来を考えるときに、自由に話してもらってもいいのですが、やはりある程度の情報があった上で話したほうがいいということで、「3E+S」を取り上げました。Energy security（エネルギー安定供給）、Environment（環境適合性）、Economic efficiency（経済性）、そして Safety（安全性）ということで、第2回から第5回の4回はそれぞれについての講義が行われました。

前回は、〈環境適合性〉の講義でしたが、講師の柳下先生が行っているワークショップの中でテキスト（情報資料集）を作っていましたので、参考資料として提供させていただきました。どうでしたか？ 少し難しかったでしょうか？ 最初のほうは簡単に書いてあるのですが、資料編はかなり難しかったと思います。でも、わくわくして読んでくれたというAさんもいらっしゃいますので、それぞれのレベルで目を通してきてくれるとありがたいなと思っています。今日は、この資料集をどこまで読み込んできたかということが露わになってしまう作業が、この後待っています。

ということで、こういう前提でワークショップを進めてきましたね、ということを振り返ってみました。